

4 死亡の状況

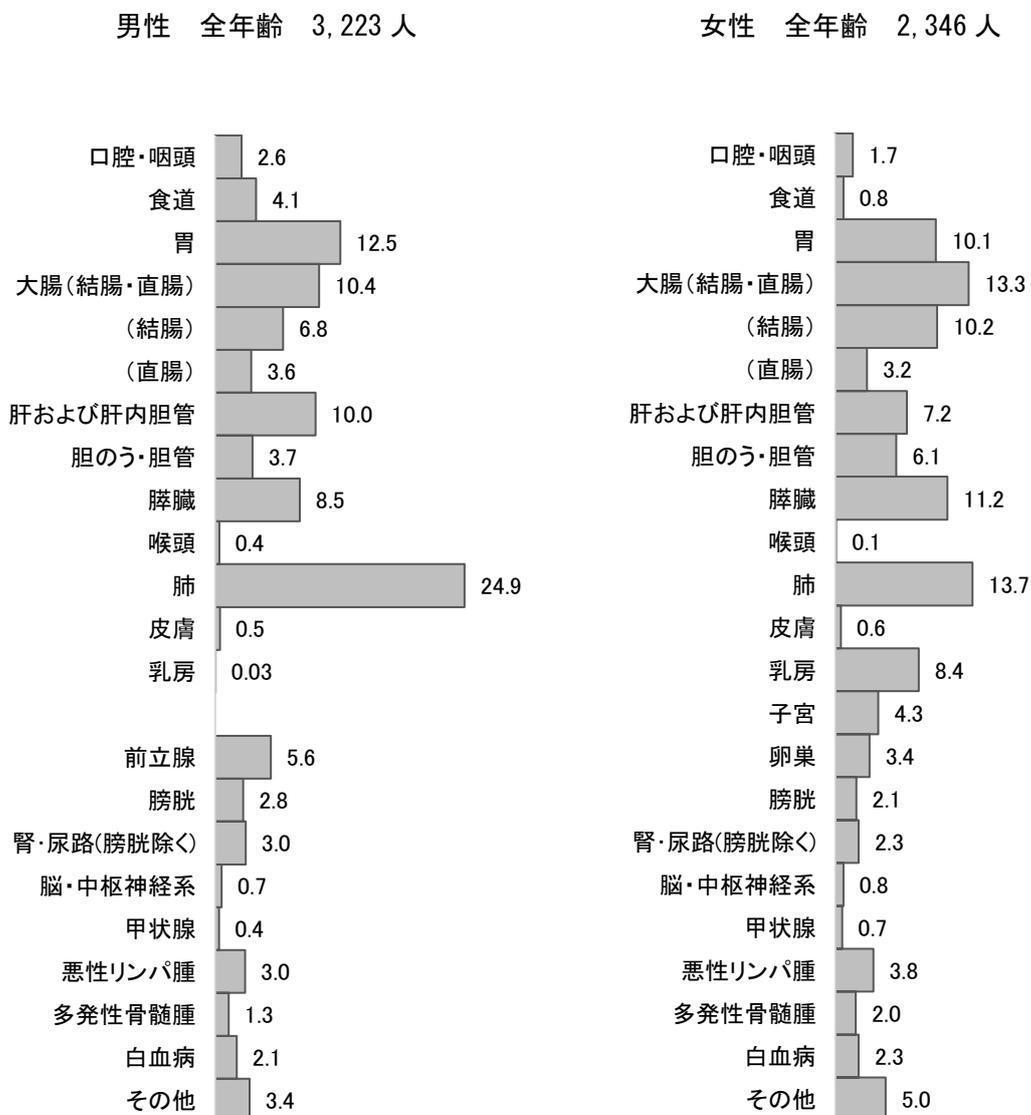
(1) 死亡の概要

岡山県において、がんを原因として死亡した者の数は、男性 3,223 人、女性 2,346 人、合計 5,569 人であった。

部位別では、男性は肺（804 人、24.9%（全部位に占める割合、以下同じ））が最も多く、次いで胃（403 人、12.5%）、大腸（335 人、10.4%）の順となっている。また、女性では肺（322 人、13.7%）が最も多く、次いで、大腸（313 人、13.3%）、膵臓（263 人、11.2%）、胃（236 人、10.1%）の順となっている。

【図 17】

図 17 部位内訳（%）（表 9 から作成）

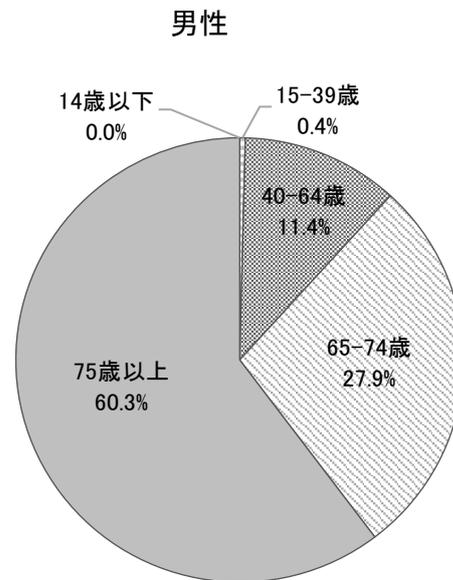


(2) 年齢別に見たがんの死亡

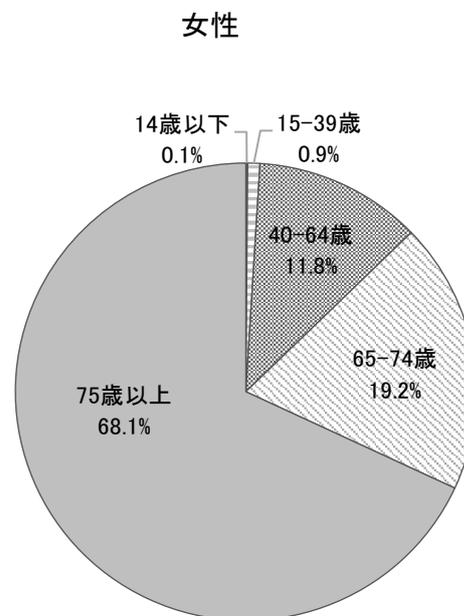
がんによる死亡について年齢階級別内訳をみると、男性では全体の約 88.2%、女性では全体の約 87.3%が 65 歳以上である。【図 18】

図 18 年齢階級別内訳 (%) (表 10 から作成)

年齢階級	男性 (人)
14 歳以下	0
15-39 歳	13
40-64 歳	366
65-74 歳	900
75 歳以上	1,944
総数	3,223

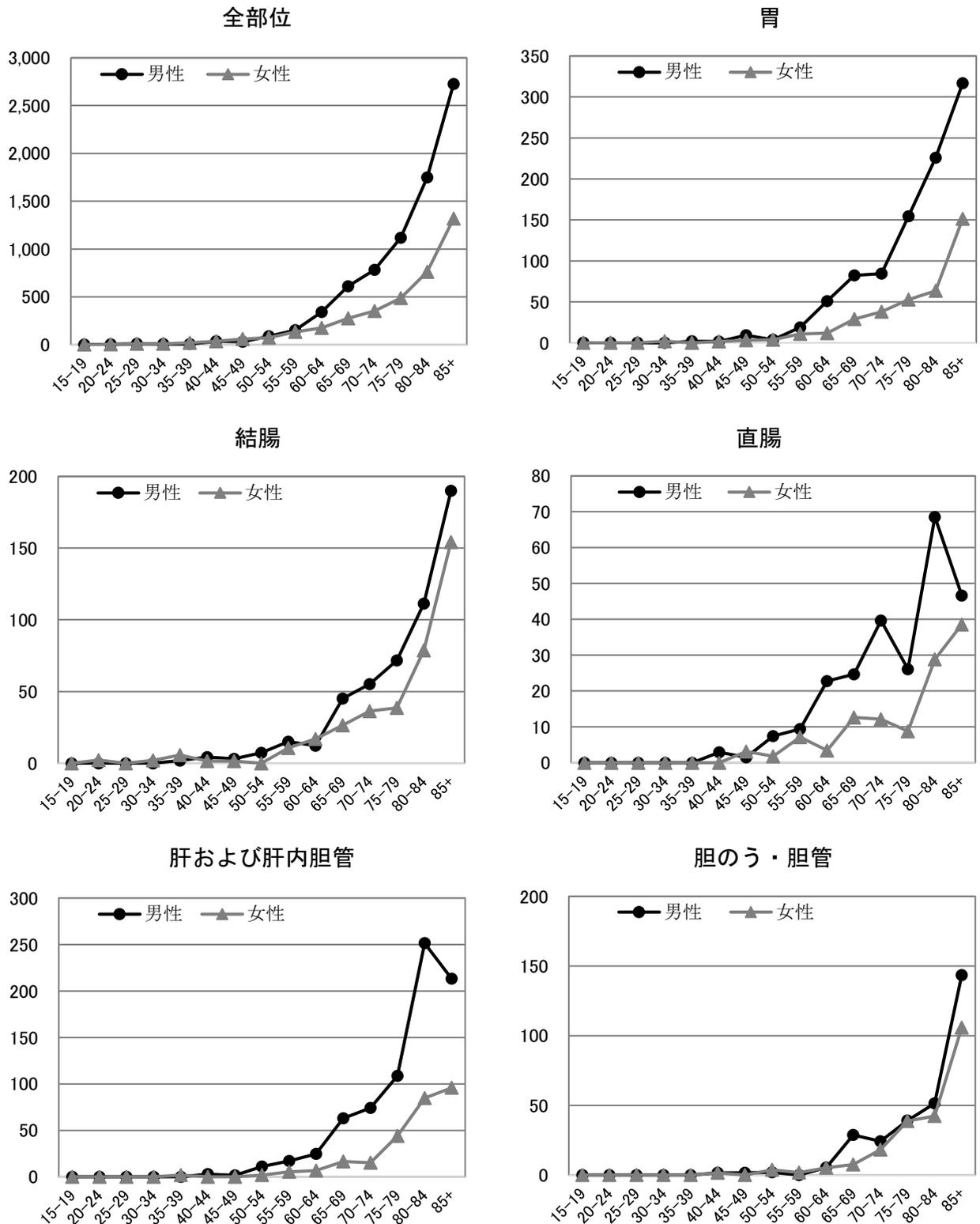


年齢階級	女性 (人)
14 歳以下	3
15-39 歳	20
40-64 歳	276
65-74 歳	450
75 歳以上	1,597
総数	2,346

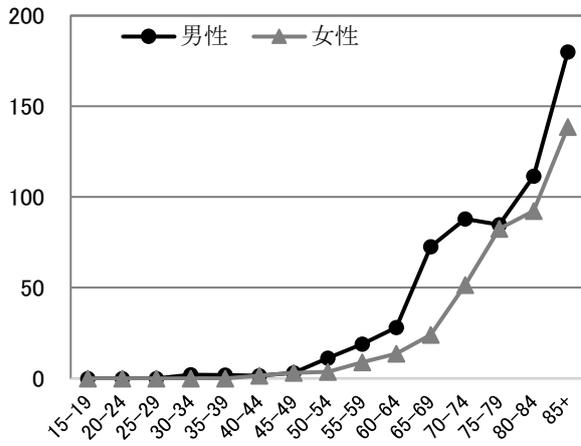


主な部位別の年齢階級別死亡率では、ほとんどの部位において、高齢になると罹患率が高くなるため、年齢とともにがんによる死亡率も高くなっている。女性の乳房は60代、子宮は30代後半から40代の比較的若い世代の死亡率が高い。【図19】

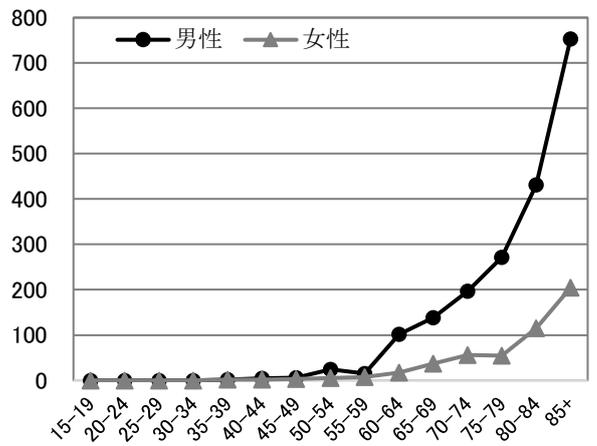
図19 部位別年齢階級別死亡率：人口10万対（表11-2から作成）



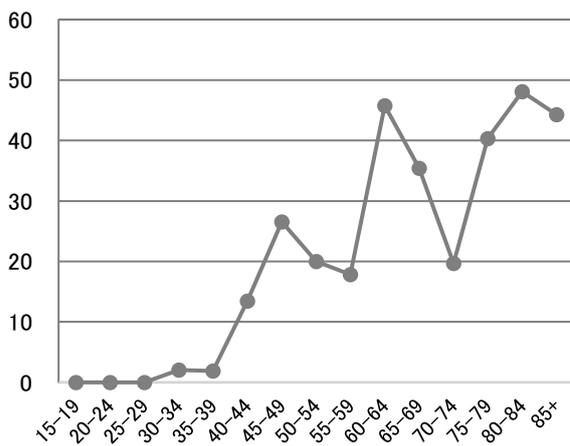
脾臓



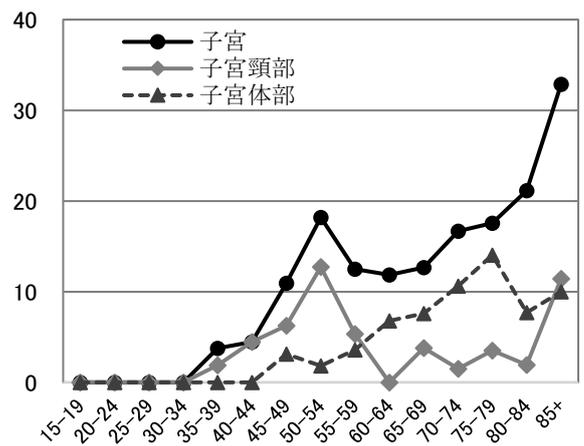
肺



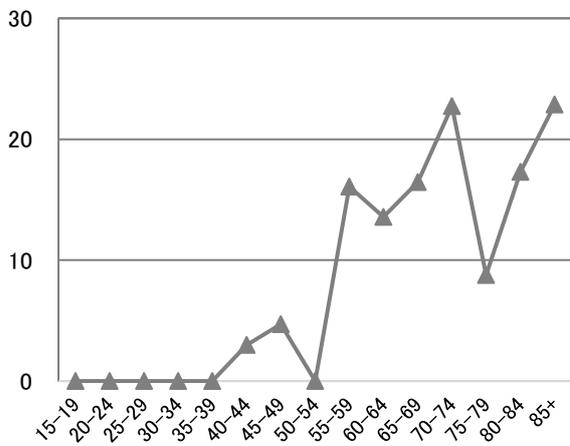
乳房 (女性のみ)



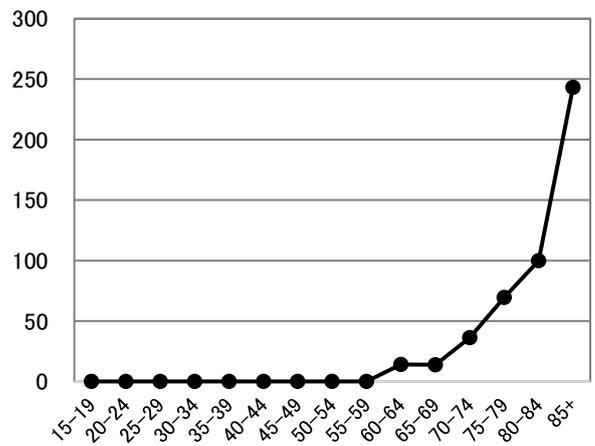
子宮



卵巣



前立腺



(3) 岡山県のがんの死亡の特徴

部位別の粗死亡率と年齢調整死亡率について、厚生労働省の「人口動態統計」による全国値との比較を示した。

年齢調整死亡率で見ると、ほとんどの部位において岡山県は全国値を下回っている。【図 20・21】

図 20 部位別粗死亡率：人口 10 万対（表 9、人口動態統計から作成）

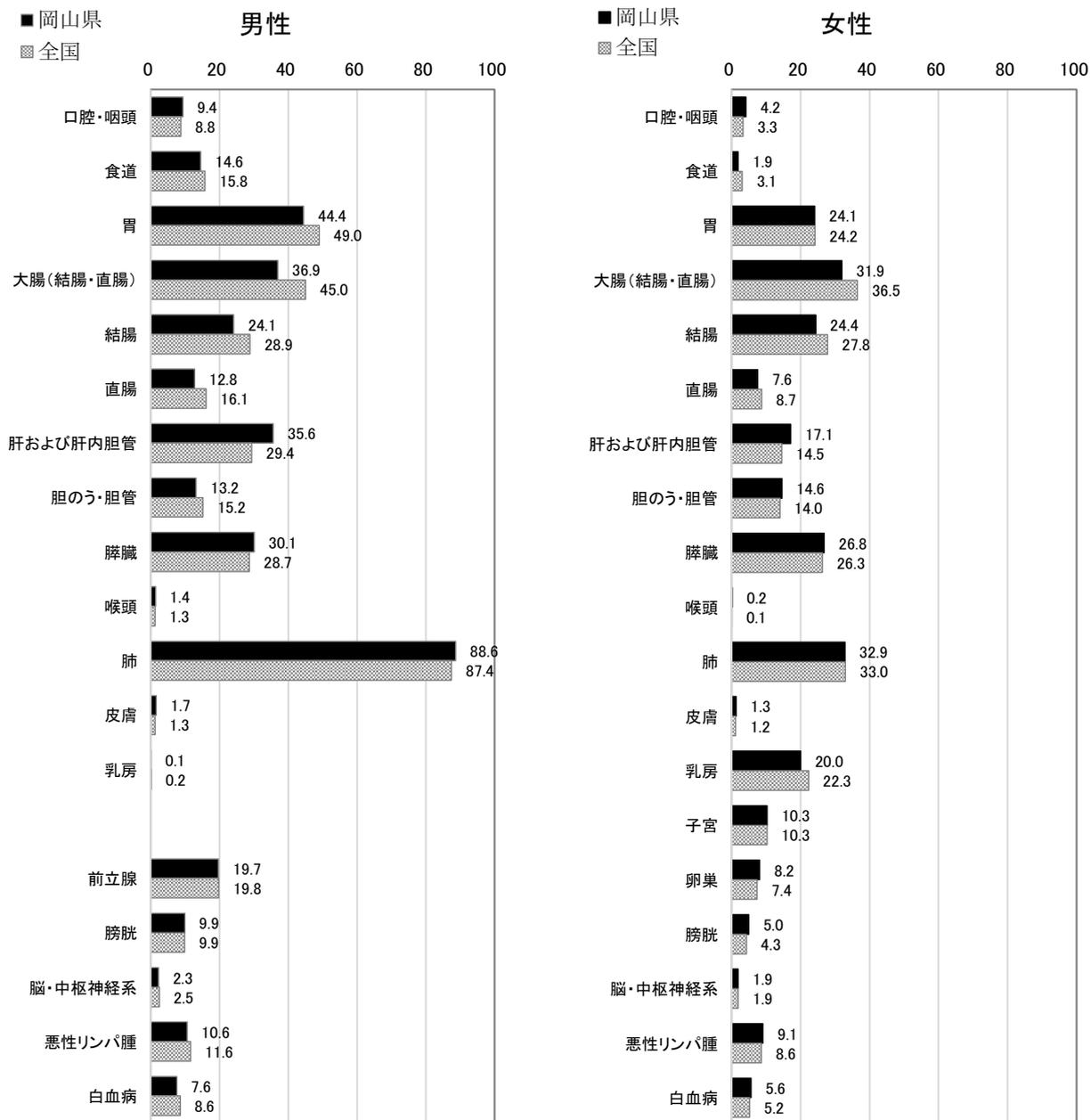


図 21 部位別年齢調整死亡率：人口 10 万対（表 9、人口動態統計から作成）

